

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表(2022)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6		1	指定基準を満たしている 活動内容や利用人数により、工夫してスペースの確保に努めている
	②	職員の配置数は適切であるか	6	1		指定基準を満たし、加配職員を配置している
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		3	4	受け入れ対象の児童でバリアフリーの設備を特に必要としない建物の構造上、バリアフリー化は難しい (2階に位置しており、階段での上り下りが必須になる) 階段の上り下りも体カトレーニングの一環として前向きに捉えている
業務 改善	④	業務改善を進めるためのP D C Aサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5		2	非常勤職員を含めて参画する事が課題と感じる為、事前連絡を徹底していく。また、勤務時間との兼ね合いもある為、会議に参画出来ない場合でも、意見が伝わるようになに書類整備をしていく
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7			職員全体で共有し、話し合い改善に努めている 質の向上に向けて、改善に努めている
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	2		ホームページで公開している
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	3		今年度より第三者評価を取り入れている 現在実施中の為、評価がまとまり次第(2月頃報告書が届く予定)、改善が必要なものを対応していく。また支援の質向上を更に伸ばし、維持できるように努めるていく
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6	1		適宜、研修を実施している また、研修内容を職員と一緒に考え、質の向上に努めていく

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等サービス計画を作成しているか	7			
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールをしようしているか	4	1	2	アセスメント様式を使用している 今後、現在使用している様式をブラッシュアップし、より使いやすく、内容も職員一同が相違なく判断できる書式に変更していく
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5		2	内容を職員間（常勤・非常勤を含め）で確認しながら、プログラムカレンダーを完成させていく
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫しているか	7			様々な体験や経験を実施できるように組み合わせて実施している
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	4	1	2	過ごす時間が限られてしまう為、療育時間を考えたプログラムを組んでいる。学校休業日は、学校休業日にしか出来ない活動を多く入れている（課外活動や昼食作りなど）
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等サービス計画を作成しているか	5	1	1	集団活動（理念）の中で児童一人ひとりに目を向けて、その日のコンディションや状況に応じて対応している 集団を主の活動としているが集団の中で個人の課題にも焦点を当てながら療育を行っている
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6		1	朝礼、昼礼、終礼を実施している（職員の出動時間により参加職員が異なる為）
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7			
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	1		引き続き、正しく記録をつけることを徹底していく	

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	1		職員（常勤・非常勤を含む）へ事前に日程を伝達し、参加の都合がつかなかった職員に対しては別紙への記入をお願いしている
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	4	3		多種多様に行っている他、児童からもやってみたい活動の意見を取り入れ、実現化している 将来の選択肢の幅を広げる活動を考え実施している
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもに精通した最もふさわしい者が参画しているか	3	4		サービス担当者会議自体の実施がはばないが、必要に応じて話し合いに介入して頂いている 参加の機会があれば、積極的に参加したい
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	5	1	1	保護者を通じて行うことができている 予定が分からない際は、学校へ連絡し確認している
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	2	3	該当する児童の受け入れなし
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	1	3	保育所、幼稚園関係との直接的共有はないが、こども発達支援センターや相談支援事業所のある児発に通所されていた児童については、相談支援専門員と情報を共有している。保護者からの聞き取りが多い 今後ケースによっては、保護者同意の元、確認していきたい
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合は、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		5	2	これまで、該当する児童なし
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	3	1	研修の機会があれば、積極的に受講したい
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動をする機会はあるか	2	1	4	公園や公共施設等での活動を通じて接する機会が自然とある活動の目的として、関わる機会を設定しているわけではないが、今後の課題と感じている。 一方で、自然と交流している事が理想とも考えている
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	3	2	2	協議会の会員になっているが、参加する機会がない 参加の機会があれば、積極的に参加していきたい

	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	1		状況を伝える様心がけてはいるが、送迎時には伝えきれていない部分（時間や外になる為）もある為、面談時に伝え合う事もある
	㉑	保護者の対応力の向上の図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	3	1.5	2.5	ペアレントトレーニングと確立しているものはないが、保護者が抱える困り事や相談に助言、提案をしている 今後、ペアレントトレーニング方法の確立を検討していく
保護者への説明責任等	㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	1		契約時に説明をしている
	㉓	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6		1	適宜、相談や助言を行っている その場で答えられない内容については、一度事業所に持ち帰り、職員間で内容を共有し、改めて連絡させて頂いている
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		2	5	父母会の実施は行えていないが、イベントに保護者を招いた際に交流をしている 父母会について、ご利用されている皆様へアンケート実施を検討していく
	㉕	子どもや保護者から苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	1		対応の窓口を設けている。 現状、苦情自体ありませんが、引き続き、疑問に思われることが無いように何かがあった際は、包み隠さず事実や対応を丁寧に説明していく
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5	2		毎月プログラムカレンダーと補足説明文をご利用様に配布している 会報については、職員負担も考慮して行っていない
	㉗	個人情報に十分注意しているか	6	1		引き続き、注意していく
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7			言語での伝達が難しい場合は、絵カードなどを用いて、視覚的に支援している 外国籍の保護者の方に対して、漢字へのルビ振りや簡単な言葉で伝達するように心がけている
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか		2	5	コロナ禍で地域の方を招待する企画は難しいと感じているが、上野の森美術館の講師の方に事業所に来て頂き、絵の書き方を教えて頂いたり、同一区内の放課後等デイサービス他事業所とドッチボール大会や人形劇の鑑賞会などの交流を行なった

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	4	1	2	各種マニュアルは整備済み。広く案内を図っていく
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5	2		定期的な実施はないが活動にて災害時必要な知識を児童たちが理解しやすい形で（動画、クイズ等）伝えたり、災害用グッズの使用方法、非常食の実食、作り方等を知る機会を設けている また、広域防災センターで体験学習を行っている
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5	1	1	研修会は実施しているが、常勤・非常勤の全職員が実施出来るように研修会のあり方を検討していく また誤った判断を起こさない為にも、疑問や不安に思った事は、一人で判断せず、必ず二人以上の判断で行動して行く 昨今のニュース等を含め、職員間で事例の共有を行っている
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了承を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	4	2	1	身体拘束を行った事例がありません。 また、身体拘束に至らないよう、環境整備を整えている 現状、安心・安全に過ごして頂けている為、必要性はないと考えてはいるが、個別支援計画書への記載はしている （万が一、命に関わる事例が起こった際に対応する為）
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4	3		保護者との共有はしているが、医師の指示書までは頂いていない 事例により必要があれば、医師から指示書のご提出をお願いしていく
④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	2	2	3	終礼、ミーティングで確認共有している 様式はあるが、口頭での共有が多い為、様式の活用方法を再検討していく	